

第2学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「あなのやくわりを考えよう」 教材名「あなのやくわり」

2 単元の目標

穴の役割を説明する言葉が物の内容を表す働きに気付ける。穴の役割の説明と自分の経験を結び付けて感想をもち、友達と共有できる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①穴の役割を説明する言葉が物の内容を表す働きに気付いている。 (〔知識及び技能〕(1)ア)	①「読むこと」において、穴の役割の説明と自分の経験を結び付けて感想をもち、友達と共有している。 (C(1)オ・C(1)カ)	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

物にある穴とその役割の関係を読み、自分が見ていた物の見方がどう変わったかを伝える。穴の場所を見付け、その役割が文章でどう説明されているかを確かめる。学習指導要領のC(1)オ・C(1)カを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)アを、言語活動の中で確かめる。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

「物」「穴の場所」「本文で説明された役割」「自分が思ったこと」を分ける。実物を見る場合も使い方や安全を確かめ、分解や改造は活動に含めない。おおむね満足できる状況は、穴の役割の説明と自分の経験を結び付けて感想をもち、友達と共有しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画(全9時間)

次	時	学習活動	評価規準(評価方法)
第1次	1	○題名から知りたいことを出し、全文を読む。	学習状況を見て支援する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第2次	2～3	○説明された物と穴の役割を対応させる。	知①（語句や内容の整理）
	4	○役割が分かる言葉を確認、自分が見た物と比べる。	学習状況を見て支援する。
	5 （本 時）	○見方が変わったところと本文の根拠を伝え合う。	思①（発言・学習記録）
	6～7	○感想カードを書き、読んだことと自分の推測を分ける。	学習状況を見て支援する。
	8	○カードを交流し、友達の気づきと自分の気づきを比べる。	学習状況を見て支援する。
第3次	9	○物の説明を読む前後で考えがどう変わったかを振り返る。	態①（学習前後の記録・振り返り）



6 本時の指導 (5/9)

(1) 本時の目標

穴の役割の説明と自分の経験を結び付けて感想をもち、友達と共有できる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「穴の役割を読んで、前に見た物の見え方はどう変わりましたか。本文のどの説明から考えましたか」 【めあて】物にある穴とその役割の関係を読み、自分が見ていた物の見方がどう変わったかを伝える。 〈予想される児童の反応〉 ・形だけを見ていたが、穴にも理由があると知った。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「穴の役割を読んで、前に見た物の見え方はどう変わりましたか。本文のどの説明から考えましたか」 自分で言葉や本文の箇所を確認、理由を添えて考えを書く。ノートを示して説明し、聞き手は確かめたところと、まだ確かめたいところを返す。全体では考えが分かれた箇所を取り上げ、何を根拠にしたかを比べる。 〈予想される児童の反応〉 ・形だけを見ていたが、穴にも理由があると知った。 ・自分が見た物にも同じ働きがあるのか確かめたい。 ・見た目が似た穴でも役割は同じとは限らない。	「物」「穴の場所」「本文で説明された役割」「自分が思ったこと」を分ける。実物を見る場合も使い方や安全を確認、分解や改造は活動に含めない。 想定する難しさ：身の回りの穴の役割を全て推測だけで断定する。役割の説明を名称と取り違える。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 穴の役割の説明と自分の経験を結び付けて感想をもち、友達と共有している。(発言と学習記録)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・見た目が似た穴でも役割は同じとは限らない。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「穴の役割を読んで、前に見た物の見え方はどう変わりましたか。本文のどの説明から考えましたか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

